



あらゆる場所の混雑情報を可視化し カスタマーの待ち時間をゼロに

株式会社バカン 九州・沖縄エリア 責任者 畠山 怜之氏

リアルタイムで空き情報を伝える

飲食店の空き情報をリアルタイムで伝えるプラットフォーム『VACAN (バカン)』が、2020年1月に九州上陸。6月末現在で全国約300店舗、福岡では約60店舗の混雑情報が、ウェブサイト上でチェックできます。このサービスを開発・運営するのが株式会社バカンです。福岡市中央区大名にある九州・沖縄営業所では、掲載店舗の拡大と新サービス提供に向けて奔走しています。

『VACAN』は日本有数のシンクタンクや大手ゲーム会社で辣腕を振るった代表取締役の河野剛進さんの着想によるもの。河野さんが家族で商業施設を訪れた際、満席ばかりで飲食店に入

れなかったという経験をもとに、店舗の空き情報が事前に確認できるサービスの開発を決めたといいます。飲食店のドアに取り付けたセンサーやカメラ、店舗からの混雑情報などをAIで解析。混雑状況をリアルタイムで判断し、ウェブサイトの地図上に飲食店ごとの混み具合を表示するシステムです。また商業施設では設置されたデジタルサイネージに施設内の店舗の状況を表示するなど、「いま空いているか1秒でわかる、優しい世界をつくる」という理念のもと、サービスを拡充。九州・沖縄営業所の畠山怜之さんは「食事をするとき、旅行をするとき、さまざまな行動の起点として『VACAN』を活用してほしい」と話します。

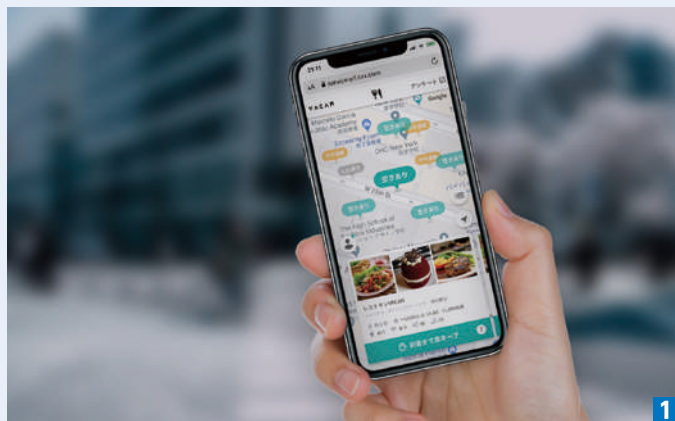
そのほか店舗の行列管理としてスマー

トフォンに整理券を発行する『VACAN noline』、トイレの空室状況を可視化する『VACAN Throne』を展開。『VACAN Throne』のオプションとして各個室にモニターを設置、利用時間を表示して長時間利用を防ぐ『VACAN AirKnock』を導入したオフィスビルでは、滞在時間を約360時間削減するなど、トイレの回転率と業務効率化に貢献しています。さらに6月にはホテル・旅館の大浴場やレストランのリアルタイム混雑情報を配信する『VACAN for Hotel』をリリースしました。

「さまざまな可能性を秘めているのが『VACAN』の魅力のひとつ。ありとあらゆる空き情報を見える化することで、人々の生活をもっと便利にしたい」と畠山さんは意気込みます。

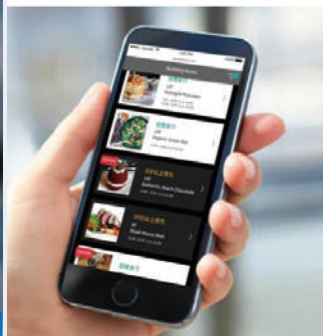
【プロフィール】

福岡県出身。大学卒業後、東日本電信電話株式会社に入社。2019年9月、同社からの出資に伴い株式会社バカンに転向。両社のベンチャー連携に尽力する。2020年からは九州・沖縄営業所立ち上げのため、故郷である福岡へ。



1

IoTと人工知能によって実現する
いま、空いているか1秒で分かるプラットフォーム



2



3



4

1 「VACAN」では位置情報をもとに周辺店舗の空き情報を表示。任意の住所周辺でも検索可能

3 飲食店などに設置するボタン。混雑状況を目視で確認してボタンを押すとリアルタイムで反映される

2 商業施設のサイネージには、施設内の空き情報を発信。ユーザーの利便性向上と売上UPの両面で貢献する

4 ドアに設置するセンサーも自社開発。ソフトからハードまで自社で完結できることがバカンの強み

“空いている”ことが ポジティブ情報に

新型コロナウイルス感染症により、大きく落ち込む外食産業。それに対しても『VACAN』は有効だと畠山さんはいます。

「新型コロナウイルス感染症が発生する以前は、飲食店にとって“空いている”という情報は集客の側面とともに『流行っていないのでは』『美味しくないのでは』など、ある種のネガティブイメージになっていました。しかしいまのwithコロナの時代においては、混雑していないという情報は3密を避けるためのひとつの指標としてプラスイメージに変わりつつあります。そのため『VACAN』では、各店舗の感染症対策も掲載。安心安全は飲食店にとって、大きなキーワードになっていくはずです」。

その証拠に九州・沖縄営業所には掲載についての問い合わせが殺到。加えて10月末まで無料掲載のキャンペーンを実施していることも追い風となっているそう。畠山さんは「緊急事態宣言が解除され外出自粛は終わりましたが、

外食産業は依然として厳しい状況にあります。『VACAN』を活用して皆さんの助けになりたい」と意気込みます。

九州のニーズを抽出し 新たな分野に進出を

九州進出前には「東京に比べて飲食店の空き情報に対するニーズは少ないのではないか」とのイメージもあったという畠山さん。その一方で「世界に進出するためには、東京という人が密集した特殊なエリアではなく、福岡市の規模での成功モデルが必要」とし「東京とは違う、九州ならではの需要があるはず」と力を込めます。

「例えばコインパーキングが好例です。東京の交通手段は駐車場代などのコストや混雑の面から公共交通機関がメイン。しかし車社会の福岡、とくに博多・天神エリアではどこのコインパーキングが空いているかという情報には価値があるはず。そのほかにも地方自治体の窓口、病院の受付、観光地など、地域性を生かした切り口はたくさんあります。新たな領域にチャレンジしながらユーザーの利便性

を向上し、地域経済にも寄与していきたい」と畠山さん。

すでに中国にも拠点を設置し、世界を見据えたサービス展開をめざす株式会社バカン。畠山さんが手始めに目標としているのは、福岡市にある約1万店舗全店の『VACAN』掲載です。

「地元である福岡で、自分が広めていくサービスを皆さんに使ってもらえること自体を非常に嬉しく感じています。さまざまな施設に『VACAN』を導入してもらい、いつか電気やガス、水道と同じようにインフラとして使ってほしい。世界に展開するモデルケースを、ここ福岡から発信していきたいと思います」。

取材日：6月29日



株式会社バカン 九州・沖縄営業所

〒810-0041 福岡市中央区大名2-6-11

TEL 080-3731-4823

<https://corp.vacan.com/>